

自己記録の更新に挑戦 洞爺湖町水泳競技大会

第27回洞爺湖町水泳競技大会（とうや湖水泳協会主催）が、8月27日、町民プールで開かれ、洞爺湖町水泳少年団や伊達スイミングクラブのほか、町内小中学生、高校生、一般のスイマーなど46人が参加し、自己記録の更新を目指しました。

競技は、男女とも小学1・2年生、同3・4年生、同5・6年生、中学生、一般の年齢別で実施され、25、50、100メートルごとの自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライと100メートルの個人メドレー、メドレーリレー、フリーリレーなどが行われました。

選手らは、家族や仲間の声援を受けながら力強い泳ぎを披露しました。



勢いよく飛び込む選手たち

終戦を迎えた8月にあわせて、すいとんを食べながら、平和の尊さ



すいとんを食べながら戦争体験を話す参加者

や大切さを考える「すいとんを食べて戦争を語りつぐ集い」（洞爺湖町非核平和のまちづくり実行委員会主催）が、8月28日虻田ふれ合いセンターで開催され、約45人が参加しました。

最初に富岡在住の川端ひろ子さんの講話があり、3歳で被爆した広島での体験を話し「お互いに理解し、許し合う心が大切だ」と訴えました。

その後、すいとんを食べながら、厳しかった戦争体験が語られ、参加した一人ひとりが平和への思いを強くしました。

戦争体験の記憶を次の世代へ すいとん食べて戦争を語りつぐ

アポイ岳ジオパーク

がある様似町の小学生が、

9月10日、



きあがったピザを試食する子供たち

洞爺湖町を訪問し、地元小学生と有珠山の噴火遺構を見学するなどして交流を深めました。

道内で世界ジオパークに認定されている2地域の交流を深めようと胆振総合振興局などが企画しました。

訪問したのは、様似町の小学生9人で、地元からは洞爺湖町や伊達市などの小学生12人が参加しました。

洞爺財田自然体験ハウスで「ジオピザ」づくりを行い、その後洞爺湖ビジターセンター・火山科学館を見学。最後に金比羅火口散策路で噴火の爪痕を見て歩きました。今度は地元小学生が、11月12～13日の予定でアポイ岳ジオパークに行く予定です。

道内世界ジオパーク認定地域の交流 様似町から小学生来町

緑はどうなった？ 秋季授業 森の再生で防災意識高める

毎年、春と秋に開催されている環境授業「緑はどうなった？」が9月15日、洞爺湖温泉小学校（富田律子校長）で児童40名が参加して行われました。

この授業は有珠山噴火後の緑の再生を通して噴火災害や自然への理解を深める目的で2004年から続けられています。

今回の秋の授業では「宝物探し」と題し、北海道科学大学の岡村俊邦教授の指導で洞爺湖畔の林でミズナラやトチの木の種を採り、採った種を来年の春の植樹に向けて

「大きく育ってね」と成長を願いポットに種を植えました。



採取した種をポットに入れる児童たち

まちのわだい

